

ユカタン州のある町からカリフォルニアへの移民 —「ジェネシス・ブーム・そして現在」—

渡辺 暁 (山梨大学)

キーワード： メキシコからアメリカへの移民、ユカタン州（メキシコ南東部）、
移民後発地域、教会

報告要旨

ユカタン州ペト市は、アメリカへの移民がどのようにして始まったかが明らかとなっている珍しい事例である。この発表は、発表者のフィールドワークならびに、地元の元教員であり政治活動家でもある人物が発表した移民たちへのインタビュー集を元に、1980年に始まった同市からの移民とその拡大、そしてリーマンショック後の沈静化までの歴史を概観した。このペトの町からの移民は、1970年代後半にこの地に派遣されていたアイルランド出身のカトリック神父が、カリフォルニア州の教区へと帰任したときに、5人の若者の移住を助けたことではじまった。神父はその後も移住を希望する町の住民への支援を続け、資金援助や到着後の仕事の世話、そして不法入国斡旋の依頼なども行っていた。そうしてカリフォルニアに渡った人々は、最初は農作業や建設業などに従事していたが、その後多くがレストラン業などのサービス業に転身し、一部は経済的にも成功している。神父は2004年に亡くなったが、その後も彼は移民たちに慕われ続け、町の守護聖人のような存在となっているが、彼自身が住民たちについて、どのような感情を抱いていたのかは、定かではない。他方、ペトの町では移民の経済力を町の活性化につなげようという努力がなされてきたが、Programa 3x1によって実現したプロジェクトがいずれも失敗に終わるなど、その成果は少なくとも目に見える形では出ていないのが現状である。フロアからは、メキシコ農村部におけるカトリック教会の役割を考えるにあたって興味深い事例ではないかといった、有意義なコメントを多く頂いた。なお、本報告は『ラテンアメリカレポート』2015年6月号に発表した論考と一部重なっており、ご関心のある方はそちらも参照されたい。

〔主要参考文献〕

Luis Arturo, Rodríguez Sabido. nd

2006 *Exodo del Mayab a California. Mérida: Gobierno del Estado de Yucatan, Instituto de Cultura de Yucatan; Conaculta; Pacmyc.*